



西日本支部

西日本支部の研究拠点 ～公的試験研究機関紹介 岡山県生物科学総合研究所

物質機能解析第1チーム 畑中 唯史

岡山県生物科学総合研究所 (RIBS, Okayama) は、岡山県のほぼ真ん中の、自然に恵まれた吉備中央町に位置し、昨年11月で満10歳を迎えた岡山県立の研究機関です。読者の皆様は我々の存在をご存じでしょうか？

当研究所は、植物と微生物とを研究対象として取り上げ、遺伝子組換え技術を中心に、バイオテクノロジーを活用し、基礎から応用研究へ発展させることを目的とした、中・四国地方では唯一のバイオ研究所です。また、当研究所は、産学官連携のための開かれた研究施設としての役割を果たすために、TOF-MS、プロテオーム解析装置、マイクロアレイ分析機器、各種顕微鏡類など最新の分析・計測機器類を整備し、共同研究を促進するという使命も担っています。このような目的のもとに、8名の常勤研究員と8名の流動研究員 (=任期付きポストドク研究員, [1年ごと更新・最長4年任期で、優秀であればさらに2年の任期延長も可能]), その他外部資金で雇用されているポストドク研究員の約20名の研究員が7チームにわかれ、日夜研究に勤しんでいます。

我々は、5年ごとに研究計画を立て、今年度から新しい5ヵ年計画に入り、“物質生産”をキーワードに、研究プロジェクトを立ち上げ、「植物および微生物ゲノム情報を活用した効率的物質生産の技術開発のための基礎・基盤研究」を開始したところです。企業の研究所でもなく、また大学でもない地方自治体の研究所ということで、独自性をもたせるべく、県下の大学・民間企業はもとより、全国規模の民間企業との共同研究も盛んに行っています。また知的財産の獲得にも積極的に取り組み、特許出願を行った中から実際に活用される発明・発見もようやく出始めました。

ご多分にもれず、厳しい県財政の煽りをうけて、研究費は年々減少の一途をたどっておりますが、科研費・CREST・NEDO・民間研究助成などの競争的外部資金の獲得に励み、研究の質的向上に取り組んでいるところです。学会活動も活発で、分子生物学会、植物生理学会、

植物病理学会、生化学会、農芸化学会、そしてもちろん生物工学会など国内での学会発表はもとより、国際会議においても毎年たくさんの演題発表を行っております。また、論文発表も奨励されており、毎年20報程度が国際誌に掲載されています。

毎年恒例の行事として、中・高生を対象とした研究所公開を7月下旬に行っています。これは県下の中・高校にあらかじめ案内をこちらからお送りして、参加希望を募り、40名前後の生徒たちに研究所に来ていただいて、午前中に所内を見学し、お昼には研究員とともに雑談しながら昼食をとった後、午後から実際に手を動かして実験してもらうというメニューになっています。この行事は一昨年からはじめて昨年でまだ2回目ですが、終わった後の感想を生徒たちにアンケートに書いてもらうと、実験するのは結構楽しいようで、かなり評判も良いです。所員達も結構楽しんでますし、いつの日か来てくれた学生さんの中から、優れた研究者ができればいいなとも思っています。

また、毎年10月末には、RIBS バイオサイエンス・シンポジウムを主催しています。担当研究員が、各自の研究内容に沿った課題を設定し、第一線で活躍されている5~6名の先生方にご自分の研究をわかりやすく紹介していただき、終日活発な討論を行います。今年で第9回を数え、来る10月26日(金)に、JR岡山駅西口から徒歩5分の、岡山国際交流センターにて、「植物の病気を科学するー病原菌の戦略、植物の戦略、病害防除戦略ー(仮題)」のタイトルで開催予定です。演者の先生方は未定ですが、参加無料ですので、お近くの方はお気軽にご参加ください。

以上、簡単ですが岡山県生物科学総合研究所 (RIBS, Okayama) の紹介をさせていただきました。我々は、比較的規模の小さい少人数の研究所ですので、あれやこれやと百貨店のような操業はとうてい無理ですが、“山椒は小粒でもピリリと辛い”をめざして頑張っております。



Research Institute for Biological Sciences, Okayama
(RIBS OKAYAMA)

(<http://www.pref.okayama.jp/norin/seibutsu/seibutsu.htm>)

著者連絡先 E-mail: hatanaka@bio-ribs.com